出雲芸術アカデミーだより

オイコス

Oikos Vol.5

文責:学長 桑原雅次(藤江)2026.10.16発行

第28回定期演奏会を振り返って



9月のシルバーウィーク中に開催された第28回定期演奏会には、約1000人の皆様をお迎えすることができました。アンケートからも、皆様にご満足いただけたことがうかがえ、安堵しております。

出雲フィルハーモニーは、プロフェッショナル、愛好家、出雲芸術アカデミーで学ぶジュニア、そして各地から参加するOB・OGなど、さまざまな人が集う、全国でも珍しいオーケストラ＆コーラスです。

今回もシルバーウィークを活用し、本番3日前からセミナー形式のリハーサルを行いました。中井芸術監督を中心に、日を追うごとに音楽が仕上がっていく過程そのものが、演奏者にとって貴重な学びの機会となりました。

また、「マイキー先生」ことコンサートマスター高畑壮平氏の存在感も印象的でした。指揮者とともに音楽を創り上げる姿を間近で体験できたことは、オーケストラの合奏を理解するうえで、大きな学びとなりました。今回の定期演奏会に向けて行われたさまざまな取り組みの中から、私自身が実際に触れて感じたことを、いくつかご紹介したいと思います。

コンサートマスターによる特別講座

ジュニアオーケストラの弦楽器メンバーは、出雲フィルハーモニーで演奏できると判断された段階で、定期演奏会に参加しています。大人と一緒に演奏するためには、少し準備が必要と考え、夏季休業中を活用して「ヴァイオリン特別講座」を実施しました。指導はコンサートマスター（以下、コンマス）のマイキー先生にお願いし、マイキー先生が指導に集中できるよう、指揮は片寄副学長が担当しました。講座は夏季休業中に第一期から第三期まで、さらに9月には第四期として弦楽器合奏を行いました。

第一期：ブラームス「交響曲第2番」

3日間、アンサンブルを中心に、コンマスの動きや弓の使い方を学びました。最終日には個別導も行い、学びを仲間と共有しました。



第二期：オッフェンバック「美しきエレーヌ」序曲

ヨーロッパ音楽特有の「ワルツ」を、実演を交えて学びました。マイキー先生の身体に染み込んだワルツのリズムを間近で体験できたことは、貴重な学びとなりました。

第三期：「出雲讃歌」を含む全曲

3日間の練習を重ねる中で、日ごとにアンサンブルのまとまりがうまれ、講座の成果を実感することができました。

第四期：弦楽合奏特別講座

9月には本番を前に、ジュニアと一般参加者による弦楽合奏を2日間実施しました。中井芸術監督にも賛同いただき、指揮者とコンマスが揃って指導する貴重な機会となりました。第四期で学んだポイントをまとめてみましたので、次のページに記します。
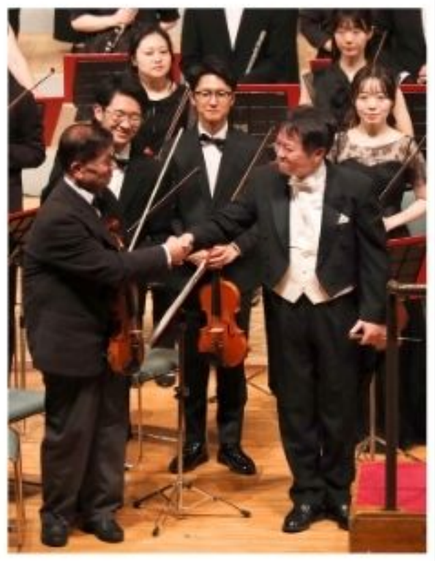
出雲芸術アカデミーだより

オイコス

指揮者とコンマスからの学び10項目



1．指揮者とコンマスのやり取りを間近で見る
　指揮者とコンマスがどのように音楽をつくるのかを間近で体感。
2．ドイツ流のオケ奏法を学ぶ
　コンマス自らの演奏を通して、オーケストラ奏法を学んだ。
3．弓の使い方を実演で学ぶ
　実際の演奏を見ながら、弓の動かし方を具体的に学んだ。
4．さまざまな奏法をお手本から学ぶ
　コンマスが奏法を実演。音だけでなく、身体の動きや表現の仕方まで見ることができた。



5．弓の角度で音を表現する
　弓の角度で、音色や音の強弱をコントロールできることを学んだ。
6．「コンマスの動き」を意識する
　コンマスの弾き方や身体の動きを意識し、音楽の流れを共有する。
7．ブラームスらしい音をつくる
　ブラームス独特の音色や響きを生み出すための、具体的な奏法を学んだ。
8．ブラームスの音楽を理解する
　音楽に込めた意図や、その背景について学び、作品への理解を深めた。
9．指揮・コンマス・楽譜に集中する
　指揮、コンマス、楽譜、仲間の音に集中して合わせることが、オケの醍醐味。
10．オケと独奏の違いを知る
　周囲と呼吸を合わせ、一人ではなくみんなで一つの音楽をつくることの大切さを学んだ。

　このように、弦楽器を学ぶジュニアの皆さんや一般参加の皆様にとって、「目からウロコ」の連続となった特別講座は、とても有意義な機会となりました。その成果は本番にも表れ、弓の動きと音楽表現が一体となって響き合い、演奏全体を一段と引き立てていました。

出雲讃歌を永遠に！

　このたび、久しぶりにオーケストラ版で演奏された「頌歌 天地のるつぼー出雲讃歌ー」を、じっくりと聴かせていただきました。あらためてこの曲の素晴らしさに触れ、その偉大さと、深く考え抜かれた構成力に驚きを隠せませんでした。今回の公演にあたり、出雲の語り部としてご活躍されている藤岡大拙氏にもお聴きいただきました。後日、藤岡氏からは、

「このような讃歌が出雲に存在していることは素晴らしいことです。詩人の大岡氏も出雲を深く理解され、古代出雲から新世紀を経て、世界に発信される情景は、出雲の宝ですね。」

と大絶賛のお言葉をいただきました。
　また、マイキーも「出雲讃歌」の詩をじっくりと読み込み、深い感動を覚えられたそうです。そして、今の世界情勢にも思いを馳せながら**「国連で演奏すべき讃歌ではないか」**と話されるほど、この曲を気に入ってくださったようです。



　そう考えてみると、「出雲讃歌」は出雲市だけのものではなく、出雲国、さらには日本、そして世界へ。そんな可能性を秘めた讃歌なのかもしれません。
　まずは、世界の皆さんにその想いを届けるために、各国の言葉への翻訳から始めてみるのも面白いかもしれませんね。いつの日か、「出雲讃歌」が国境を越えて、多くの人々の心に響く日が来ることを、少し夢見てみたいと思います…。

出雲芸術アカデミーだより

オイコス

つぶやきコーナー

このコーナーはアカデミー関係者が普段から考えていることや思いをつぶやいていただきます。

『やりたくて始めたわけではない。』

何事もそうだと思いますが、何かを始めるきっかけは大きく2つに分けられると思います。「自分でその事に興味を持って」始める場合と「自分の意思ではなく」始める場合と。

前者の場合はとても分かりやすく、その事を知った時に自分の中で「何それ!! 面白そう!! ステキ!! かっこいい!! 自分でもやってみたい!!」と言う極めて前向きな気持ちが沸き起こりその感情の波に乗って始まる。とても理想的な始まりだと思います。

それに対して後者の場合は「本当はやりたくないけど、他者にすすめられて。」とか「本当はそっちじゃなくて他の事に興味があるんだけどそっちは叶わないから仕方なく。」とか、ちょっと複雑で何だかどんよりした感情で始まる。

しかし、意外と後者の場合の方が多かったりするんじゃあないかと思っています。かく言う私も音楽との出会い、楽器との出会いは完全に後者です。

この世に生まれ落ちた瞬間から私の音楽へ進む道はうっすらと轢かれていました。

父はクラリネット、母はピアノ、父方の叔父叔母、母方の伯父叔母、母方の祖父、祖母の兄弟姉妹たち……まぁ何処を見渡しても皆んな音楽をやってる人たちだらけでした。

ピアノを始めたのはいつなのか分かりません。気が付いたら弾いていました。自分の意思は無い頃です、きっと。でも好きでした。楽しかったし、上手に弾きたいと思いながら練習も頑張っていました。

なのに、あれは中学に入り2年生に進級する数ヶ月前の事でした。青天の霹靂（へきれき）。

「おい直美。来年の4月からチェロをやりなさい。ピアノは弾ける子が沢山いるから、なかなか　この先大変だ。だから今出雲では弾ける子がほぼ居ないであろうチェロをやりなさい。」

突然の父の言葉。へ?? チェロ?? ちぇろ??ち え ろ????なんですか、それは。そりゃ見た事はあるけど、ちゃんと聴いた事もないし。私はピアノやりたいし。



続けて父の言葉。「もう先生にもお願いしてある。」

逃げ場なし。そんな事で始まった私のチェロ人生。

全然やる気も無く、ピアノに心を残したままレッスンを受ける日々。本当にひどい生徒だったと思います。先生にはよくぞ見捨てずに辛抱強くご指導いただき、感謝してもしきれません。

ですが、それでも続けているうちに少しずつ弾ける様になりピアノへの未練は捨ててこの楽器で進もうと言う気持ちへと変化して行きました。

高校に入り音大進学を目指して、休日には月1月2で電車と新幹線を乗り継ぎレッスンへ通う日々。

部活もしていました。（チェロを始めるのと同時に吹奏楽部へ入部しパーカッションを担当していました。唯一自分でやりたいと希望して始めた楽器です!!）



もちろんピアノも続けていました。

そんな高校3年生の中頃、ふと…。

クラスの他の子達は、まだ決めきれない沢山の可能性のある自分の将来を想像して進む学校を選んでいる。なのに私は？

私には音楽以外の他の可能性は無いのか？

両親に申し出ました。

「1週間、一切楽器を触らないで考えさせて欲しい。」

その1週間の間に何を考えていたのか、もう何も覚えていませんが、1週間後に「今日からまた練習を始めます。」と宣言しました。

やっと、自分で自分の意思で音楽の道へ進む決断しました。

出雲芸術アカデミーだより

オイコス

　それからは数え切れないくらい沢山の挫折も味わったし、立ち直れないくらい打ちのめされた事もあったしこれからもあるかもしれませんが、それは全部自分自身で選んだ道の上にあった事。そしてこれからもある事。

　そんな辛い道をなぜ歩くのか。

　一緒に歩いてくれる仲間が沢山たっくさん出来た事。音楽を奏でる喜びと、自分が奏でた音が誰かの喜びになる と知ることが出来た事。そんな自分を支えて応援してくれる人が居る事。

　こんな幸せな事はありません。今は「自分の意思ではなく」やっている事かもしれません。だけど続けていれば何か良い事が待っているかもしれませんよ。



『継続は力なり』　『念ずれば花開く』

　音楽家であった祖父と、いつも見守ってくれていた祖母がくれた言葉を最後に。

玉串 直美
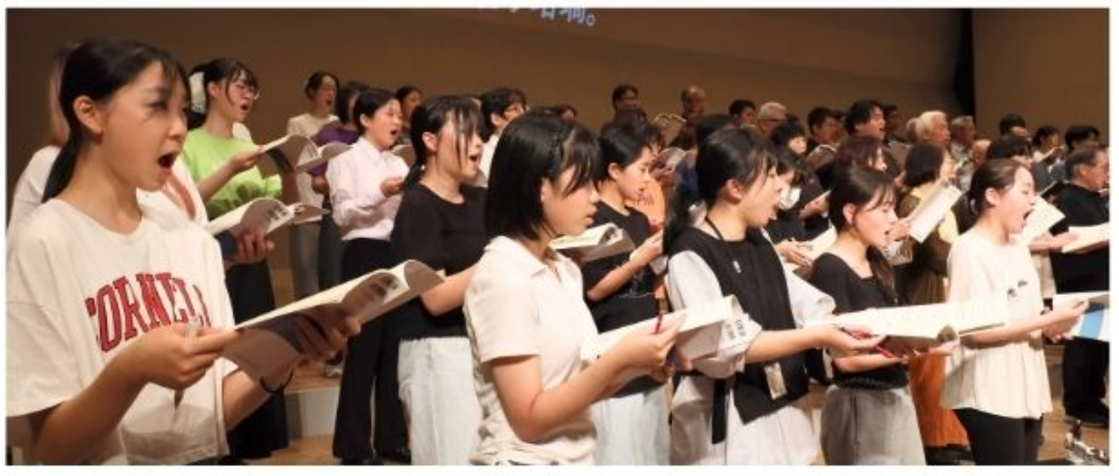
…あ!! 今ではチェロとの出会いを与えてくれた父に感謝していますよ。















